

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

尾道市立瀬戸田小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	33	32	38	36	51	48	238	36	274
学級数	1	1	2	2	2	2	10	6	16

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	C	A	A	推進	A	D	専科	推進	A	A	A	B
5年2組 (担任：B)	B	C	B	B	専科	A	D	専科	推進	B	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	C	C	C	推進	A	C	C	推進	C	C	C	B
6年2組 (担任：D)	D	D	D	D	推進	A	D	D	推進	D	D	D	B

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① 教科担任制推進教員以外にも、5・6年生の担任も教科担任授業を担当することにより、教材研究をする教科を絞るとともに、授業内容を系統的に考えるようにしている。また、1時間で終わるように授業内容を精選したり、単元計画を立てたりしていた。
- ② 児童や学級の様子で良かった点や気になる点については、遠慮無く交流し合うように共通認識を持っている。
- ③④ 教科担任制推進教員が体育・理科教科担任として授業を行うだけでなく、5・6年の学級担任も音楽・外国語・図工・書写の交換授業を行っている。

<成果>

- ① 教材研究の教科が絞られたことや系統性を意識した授業を展開することができている。授業内容を精選することができ、児童も集中して行うことができている。
- ② 各教科の授業での児童の様子について交流することで、児童一人一人を多面的に理解することができている。また、児童にとって関わる先生が増えることにより、相談しやすい環境作りができている。そのことにより、生徒指導事案を未然に防止することができている。
- ③ 教科担任制により授業者が変わることで（授業者に対する態度）、教室移動をすばやく行うこと（時間意識）など、小学校段階から体験することで慣れることができている。
- ④ 多くの授業を他の授業担当者に受け持ってもらうことで、授業準備が少なくなった。その分、自分が担当する授業をより深く教材研究し、準備を整えることができるようになった。

(体育の授業風景)

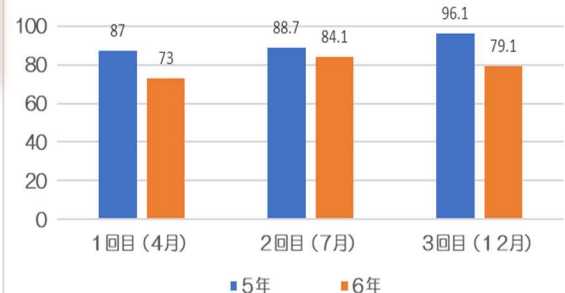


マット運動では、ゴムを利用して足をあげたり軽く跳ぶ意識を持たせるようにしたりした。
跳び箱運動（台上前転）では、恐怖心を取り除くためにマットを複数枚重ねることで跳び箱と高さをそろえながら練習した。



自分がどのように体を動かしているのか映像で確認をしている。できるようになるための課題を明らかにしながら運動に取り組んでいる。

あなたは運動やスポーツをすることは好きですか？



運動種目にもよるが、「運動やスポーツをすることが好き」と解答する児童の割合は、継続的に高い数値を示している。準備段階から児童実態を把握し、きめ細かいステップを用意している。

<課題>

- ① 技能教科（特に図工）においては定着や作成等に個人差があり，単元計画や授業計画を立てることが難しい。また，定着や作成が十分できていない児童の対応をどのようにすればよいかが課題である。
- ⑤ 行事や外部講師を招聘しての授業による時間割変更や祝日や代休等により，日々基本となる時間割の変更が生じる。また，多くの授業を交換していることもあり，互いに行き来できるように週案を立てる必要がある。そのため間違いなく作成することに時間がかかっている。
さらに，授業時数の確保も難しい。

5・6年生で教科担任制を導入していることは周知されている。しかし，週案作成に係る方法等について教科担任制に関わっている教諭しか分からない部分がある。今年度，関わっていない先生方が今後関わる時にスムーズに関わることができるようにするためにはどうすればよいのか。



<対策>

- ① 児童の定着状況等を見越しながらゆとりを持った単元構成となるよう計画を考える。
- ⑤ 「誰が，どの学級で，何の授業をするのか」が分かるように5・6年生全体の週案をホワイトボードに作成している。その後，各学級の週案に反映させながら作成している。
また，教科担任制推進教員（教務主任）だけがホワイトボードを作成するのではなく，関わっている先生が週替わりに作成する（教務主任が最終確認をする）ようにし，教科担任制に関わっている先生方が誰でもすばやく見たりチェックしたりすることができるようにした。

